

令和6年度第2回練馬区立美術館運営協議会 要録

日時：令和7年3月19日（水）午後2時00分

場所：サンライフ練馬3階研修室

出席委員 高橋幸次会長、

内藤正人委員、馬淵明子委員、田中淳委員、関直子委員、浜田ゆきひろ委員、富田けんじ委員、小松あゆみ委員、高口ようこ委員、須藤麻世委員、畑智江子委員、石原秀男委員、吉田巳蔵委員

区職員 大木地域文化部長、渡辺文化・生涯学習課長、稲永美術館再整備担当課長

会 長： 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。会長の高橋です。よろしくお願いいたします。ただいまから、令和6年度第2回練馬区立美術館運営協議会を開催いたします。はじめに大木地域文化部長よりご挨拶いただきます。よろしくお願いいたします。

<地域文化部長あいさつ>

会 長： それでは、議事に入る前に委員の出席状況について、事務局からご報告をお願いいたします。

文化・生涯

学習課長： 文化・生涯学習課長の渡辺です。本日は佐藤委員、島田委員、小室委員、宮崎委員より欠席のご連絡をいただいております。今期委員は17名、現在13名の出席でございます。従いまして美術館運営協議会条例第7条第2項の規定により、本日の協議会は成立したことをご報告させていただきます。なお、傍聴希望ということで本日1名いらっしゃいます。また、前回ご欠席で、今期新たにご新任いただいた委員が2名いらっしゃいますのでご紹介させていただきます。

<新任委員紹介>

会 長： ありがとうございました。はじめに本日の議事の進行についてお諮りいたします。次第の1「令和7年度事業計画(案)」から順次、説明を受け、議題ごとに質問等を受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なしの声>

それでは「令和7年度事業計画(案)」について説明をお願いいたします。

館長ほか： <「令和7年度事業計画(案)」について説明…館長、学芸員、
文化・生涯学習課長>

会 長： 「令和7年度事業計画(案)」について質問等がありましたらお願いします。

委 員： いつから美術館が休館に入るか、また収蔵品移転作業の進捗状況について伺います。

美術館再整備

担当課長： 休館開始時期について、秋ごろまで開館していると現在ご案内していますが、時期が後ろ倒しになり、年内いっぱいになると想定しております。

館 長： 現美術館で行う展覧会事業は、現在開催中の「トーク・トーク」で終了ですが、区民ギャラリーや創作室の貸出を含めると、美術館再整備担当課長が申しあげたとおりになります。

学芸員： 収蔵品移転は来年度の11月までに完了することを目標に進めており、現在、約半分程度が完了しております。

委 員： 区民ギャラリーや創作室はいつ頃まで貸出する予定でしょうか。

美術館再整備

担当課長： 建物がある秋ごろまでは貸出できる予定です。それ以降についてはこれから検討していきます。

委 員： 「アートマルシェ」での取り組みについては、興味深く楽しみです。商店街以外のコミュニティはどのようなものと考えていますか。また9月という暑い時期での開催となることについて、どのように考えていますか。

館 長： 涼しい時期の開催を検討しましたが、中村橋の商店街も含めて様々な調整をした結果、9月の開催となりました。パレードについて昨年は2日間の開催としましたが、来年度は1日としています。また、美術館でクールダウンできるよう展示をアーティストに呼びかけるなど対応を考えていきたいと思います。商店街以外のコミュニティについては、まちなかのオープンスペースを含めた様々な場所を、地権者の許可をいただきながら使わせていただくなど、検討していきたいと思います。屋外のインスタレーションは初めての試みなので、工夫していきたいです。

委 員： 「練馬区民美術展」の会場が未定とのことですが、美術館以外でやる想定でしょうか。

文化・生涯

学習課長： なるべく区民の皆さまに影響がないような形で計画したいと考えています。詳細は区報等でお知らせする予定です。

委員： 以前もお話ししましたが、「アートマルシェ」でコミュニティとして学校を絡めてほしいと思います。また、学校への出張プログラムについて今年度はどのように行われていたか、来年度の目標や受入数等はあるかお伺いしたいです。

学芸員： 出張プログラムは学校側からの申し出により実施するため、受入数の目標を決めることは難しい実情があります。内容については学校のご希望も踏まえて決めているので、年度で内容の固定はしていません。これまでは展覧会の内容に付随して行うことが多かったように思いますが、来年度以降は美術館での展覧会がないイレギュラーな形なので、学校と相談して決めていきたいと思っています。

委員： 交通の便が悪い地域のために、小学生対象のワークショップを石神井公園区民交流センターで実施するとのことでした。出張プログラムも有効だと思うので、ぜひ継続してほしいと思います。

学芸員： 団体鑑賞については美術館での展覧会のない状態が来年度以降続くと思われますので受け入れは厳しいですが、出張プログラムは実施できるので、力を入れていきたいと思っています。

委員： 中高生の美術ゼミは、10代から美術の世界を知り理解するという目的のことですが、美術鑑賞は病気の予防や健康増進に繋がるとWHOが発表しており、病気を抱えている方々にも効果があると思います。また、芸術に興味を持ち、都立総合芸術高等学校などの芸術専門の学校に進学したいと考えているお子さんにとって、この取り組みは大きな刺激になりうると思います。

委員： 私はバックヤードツアーのことについてお伺いします。休館するからこそできる企画とのこと、休館後の実施かと思いますが、いつ頃を想定していますか。

また、先ほども休館時期がまだはっきりしないということでしたが、いつ頃決まるのかを教えてください。

学芸員： バックヤードツアーは、令和7年度の開館をしている時期に行います。改築のための休館が目前に控えているというのは、展覧会の数が減っていることからわかることだと思いますが、そういう時期であるからこそ裏を見せることができると考えています。

委員： わかりました。具体的な日程はありますか。

学芸員： 今のところ、6月と7月、11月と12月に1回ずつということで考えております。

委 員： わかりました。ありがとうございます。

委 員： 私は「アートマルシェ」についてお伺いしたいと思います。昨年度はアニマルパレード等大変盛り上がった企画で、今後リニューアルに向けた、美術のまちらしい素晴らしい取り組みだと思っています。また、休館中にも楽しめる取り組みということで、ぜひ頑張っていたきたいと思っています。

今回は、中村橋商店会も含めた取り組みということですが、商店会といってもサンツ中村橋商店街やもう少し先にいくと貫商会という目白通りまで続く別の商店会があります。中村橋といっても、中村橋駅前や北口南口もあり、現在、どこまでの範囲でアートを展開していこうと考えているかをお伺いします。

館 長： 令和7年度は、駅前のサンツ中村橋商店街を地元として一緒にやり、次年度以降ある程度大きく広げていければと考えております。

委 員： 初めての取り組みということもあるかと思いますが、中村橋の商店街各店舗にもご協力いただいて、いろいろなところでアートを感じられるように工夫していただきたいと思っています。

また、管理等難しいとは思いますが、日本画・洋画等収蔵作品を展示して、まち中に鑑賞スペース等があるといいのかなと思っています。周知はどのようにやっていく予定ですか。

館 長： チラシ等の配布に加え、展示が何か所にもわたりますので、作品の展示場所がわかるような商店街マップのようなものを作成する予定です。パレードのルートや時間も伝えたいと思いますし、SNS広報等も交えてやっていきたいと思っています。

文化・生涯学習

課 長： 補足をさせていただきます。「アートマルシェ」は、美術館・アートが中村橋に根付くための取り組みです。まちの方と対話をし、いろいろな活動を知っていただき、一緒になって練馬区を盛り上げたいと思ってもらえる形になればと考えています。その結果、次年度はさらに取り組みが膨らみ、美術っていいな、とまちの方に思ってもらえるようなプロジェクトにしたいと思っています。

委 員： 広くアートを知っていただける機会だと思っていますので、広い周知をお願いいたします。

また、パレードの警備体制についても、前は初めてだったので、皆さんで苦勞されていたと思います。今年度は人員体制も拡充して、しっかり実施いただければと思います。

休館期間が長いので、「アートマルシェ」も第1弾、第2弾と年に数回続けていただきたいなと思っています。

また、意見なのですが、講演会シリーズは令和6年度から引き続きとして

行われると伺いました。10代をはじめ、幅広い世代に知っていただく、楽しんでいただくという取り組みだと思っています。今回初ということもありますし、リニューアルということもあり、いい機会ですので、美術館にも関わっていただいている建築家の平田晃久さんに講師をお願いできたらと思います。また、練馬区といえば、アニメ・漫画の作家も豊富なまちということもありますので、できたら、そのような方に講師になっていただくというのも考えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

学芸員： 令和7年度からの事業なので、まだアニメや漫画の先生方へのお声がけはしていませんが、また次の機会以降に考えさせていただければと思っています。

平田さんをお願いすることにつきましては、これまでずっとお願いすることが多かったため、令和8年度以降にまた機会を作っていけたらと思っています。

委 員： 幅広いアーティストの方に関わっていただいて、また、令和8年度以降にいろいろ検討していただければと思います。

委 員： 令和8年度の予定をこれから検討すると思うのですが、企画展等は基本的にふるさと文化館を中心に実施するのでしょうか。

館 長： 令和7年度については、ふるさと文化館にご協力いただいてやっていきますが、ふるさと文化館を常にご利用するということではなく、他の施設と調整をはかりながら、いろいろな場所で展示することができればと考えています。

委 員： 学芸員さんたちも仕事がなくなって、雇用がなくなるようなことがないようにと、気になってお聞きしました。

文化・生涯学習

課 長： 雇用に変更はありません。今回の「幕末・明治の浮世絵展」につきましては、作品の展示をするため、収蔵環境が整っているふるさと文化館を使わせていただくことになりました。

一方子どもたちのワークショップや様々な講座等については、なるべくお客様が来場しやすいよう等、それぞれの事業によって実施場所を柔軟に考えるようにしたいと考えています。

委 員： 教育普及事業に関して、来年度から対象を広げるとのことで、大変よいことだと思っています。以前から小さなお子さん対象のよい教育普及事業をされていたと思うのですが、それにプラスアルファという形であると認識しています。令和6年度から実施している講演会シリーズは年5回開催予定とのことですが、令和7年度も短期間にまとめて開催するのか、2～3か月に1回のように1年間にまんべんなく開催するのかをお伺いいたします。

学芸員： 令和 6 年度は短期間に 5 回、開催しましたが、令和 7 年度は 9 月～2 月の間に 5 回開催する予定です。会場の都合で、9・10・11 月に 1 回ずつと 2 月に 2 回を予定しています。

委 員： 短期間にまとめて開催すると区民の目に触れる機会も少ないが、通年で開催すると、区民に知ってもらえる機会が増えるのではないかと思います。
令和 6 年度の講演会シリーズは、ゲストの方が大変すばらしかったと思いますので、来年度のゲストの方も大変期待をしております。

学芸員： ありがとうございます。

会 長： 他にありますか。
令和 7 年度の事業計画について、質問がなければ承認とさせていただきます。
次に次第の 2「令和 6 年度事業報告（中間報告）」について説明をお願いいたします。

館 長： <「令和 6 年度事業計画（中間報告）」について説明>

会 長： ありがとうございます。令和 6 年度事業報告（中間報告）について質問がありましたらお願いいたします。

委 員： 館長から「三島喜美代展」についてお話がありましたが、私も「三島喜美代展」を観させていただきました。会期最終日に伺った時には、大勢の方が来館し、三島作品をご覧になっているのを見て、感激しました。
もう一つ、現在「トーク・トーク」で、先生方や学芸員さんたちによる講演会が開催されていますが、毎回大勢の方が来ています。美術館設立時のご苦労や、美術館の有り様などいろいろ勉強させていただきました。今 4 回終わりましたが、これからまだ何回かありますので、また参加して勉強したいと思っています。ありがとうございました。

委 員： 先ほど、館長から三島氏のお話がありましたが、東京で初の展覧会が練馬区立美術館だったと記憶しております。また、開催中にお亡くなりになったということで、より注目された展覧会だったと思います。練馬で美術展を開いてからより注目度が上がったのではないかなと思いますので、三島氏の作品を寄贈された方の思いに答えられるような形で購入を検討していただければと思います。
今、「トーク・トーク」が開催されております。私も参加させていただいているのですが、歴史的な話や非常に貴重な話がありましたが、図録等の発行は考えられているのでしょうか。

学芸員： 現在のところ図録の発行予定はございません。毎回映像等で記録は取って

おりますので、その記録の書き起こしや映像記録なども先々検討していくことができるかなと思っておりますが、今はまだ図録のことは考えていない状況です。

委員：今の段階では企画がないということでしたが、これは記録に残して、多くの方に見ていただくものにしていった方がいいと思いますので、ぜひ前向きに検討していただければと思います。よろしくお願いします。

委員：館長の美術館に対する熱い想いを聞かせていただきありがとうございました。区には購入希望を、三島家にも依頼を出されているということで、区として三島氏の作品を購入できない理由はどこにあるのか聞かせていただきたいです。

文化・生涯学習

課長：館長から三島氏の例を出して、これを買ったほうが良いというお話がありました。館と区では作品収蔵に関するやりとりは様々あります。それに関して館の意向に沿いつつ、予算含め様々な精査をしています。予算がつかない、協議が難しいなど実務的な部分ではありますが、今回私も寄贈者の方の思いをお伺いしましたので、そういった部分を含めて今後検討していくことになると思います。

委員：予算等の事情もあるかと思いますが、今買わなければ二度と買えないものになるので、区として前向きに頑張りたいと思います。再整備にかかる予算のほんの一部でも使えればよいのではないかと思います。また、三島氏の展覧会観覧者数について、観覧者数が目標比101%で注目度の高さが現れていると思いました。そのあとの「平田晃久展」に関しては議会で話題になった割には、観覧者数が予定より少なかったという感想を抱きました。理由があれば伺いたいです。

学芸員：「三島喜美代展」の観覧者数目標は400人/日でしたが、「平田晃久展」は450人/日と目標が高かったということと、建築家の展覧会のため美術ファンの方とは層が違った印象で、平田氏のファンや建築好きの方がいらした印象です。数字にしてしまうと8割強とやや目標に達せていない印象はありますが、最終的な数字は18,000人を超え、よい結果が残ってよかったと思っています。目標を高く設定してしまったことを反省したいと思います。

委員：初めての建築展だったことや、平田氏の「からまりしろ」をどう伝えるか含めて苦労があったと思います。もう一つ、企画・コレクション展の観覧者数が伸びていてすごいと思いますが、入館者が減っているのは学校展がなかった影響でしょうか。

館長：企画展で4,000人程度伸びましたが、学校展の影響で2万人減ったため、結果的には入館者が減ってしまったという実情があります。

委員： 子供や子供を持つ親にとって美術館に行く唯一の貴重な機会が学校展だと思います。美術館の再整備は来年度からですが、今年学校展ができなかったのは残念だと思いました。学校展をきっかけに美術館に来てみようという子が減ったり、他の会場だと展示できる作品数が減ったという声もありました。今後も再整備が始まると開催できないと思いますが、学校展が美術館にとっては大事であることをお伝えしたいと思います。

委員： 先ほど館長から作品購入の難しさについてお話がありましたが、私は、作品の購入の優先順位や重要度を判断するのは館だと思います。練馬区立美術館はほかの館と比べると突出した力がいくつかあり、展覧会の企画力は関東でも数本の指に入っていると思いますので、館の力を区で評価・アピールしていただいていると思います。

三島氏はこれから重要な作家として評価されていくと思われますので、予算をつける、分割で払う、寄付を募るなどいろいろな方法を考えていただきたいです。

新館をつくることも重要なことだと思いますが、ソフト面についてもほかの館にない動きをとっていただきたいと思います。

地域文化部長： ありがとうございます。前回もこの会で収蔵品をどのように確保していくのかご意見いただいたところです。

区としては、練馬区立美術館の学芸員については区長はじめ大変高く評価しています。館が企画展を企画することについて、区から意見することはなく、収蔵品についてもそれは同様です。

館長からは作品購入の話を日々いただいています。作品の収集計画を立てながら予算化に向けて検討していましたが、残念ながら令和7年度の予算は通らなかったという事情があります。令和7年度は当初予算での購入は難しいという状況ですが、先ほどの寄贈者の方の思いも踏まえ、区として協議していく考えです。

会長： 今年度は予算が通らなかったが、引き続き購入に向けて協議していくという段階ということでしょうか。

地域文化部長： はい。

委員： 収蔵品の購入について簡単な質問だが平成12年以降、以前と比べるとかなり減少してしまっているが、何かあるのでしょうか。

文化・生涯学習

課長： 当時、基金を活用して地域の彫刻を整備していく事業等をやってきたという経過を聞いています。今後は、作品購入の流れを再び作るため、検討していきたいと思っています。

委員： 寄贈がコンスタントにあることは非常にありがたいことだと思いますが、購入を定期的に持続的にやっていくというのは、美術商との関係構築や、

美術館としての発展性を考えても大事なことでと思っています。今後美術館リニューアルがあるからこそできること、新しい目玉を作ることも大事だと思いますので、予算や収支とは違う観点から幅広い視野で決定し購入していくということを進めていただきたいと思います。

入館者数観覧者数についてご質問です。観覧者数が入館者数と比べて2万人少ないのはこういった要因とみていますか。

館 長： 今まで毎年開催していた小学校中学校作品展は、2万人程度観覧者がいらっしやいましたが、今年はなかったので大きく落ち込んだということでございます。

委 員： 小中学校の2万人というのは非常に大きいのだと思いました。
企画展の中で今まで無料で楽しめるものはどのくらいありましたか。

館 長： 2階の展示室の1部屋で行う小規模な展覧会は無料が多く、3階の展示室2つまたは2階の展示室も組み合わせて行う大きな展覧会は基本的に有料という状況でした。

委 員： 今後リニューアルもあるので、できれば無料で皆様が楽しめるような企画を増やしていただけたらと思います。

美術館再整備

担当課長： 新しい美術館には、常設展示室を設置する予定です。こちらでは、当館の収蔵品約7,600点を基本的に無料でご覧いただきたいと思います。

委 員： 作品の購入について、ゆとりをもって柔軟に対応していただきたいと思います。また、再整備にかかる予算を作品にかけてほしいというのは、私からもお願いしたいと思います。

委 員： 先ほどから予算の話がありますが、財政課の方に実際に現場を見てもらうことも大事だと思います。

最後に、区長の予算発表で聞いたのですが、再整備の工期や整備費を検証する件について、詳しく伺いたいです。

美術館再整備

担当課長： 再整備の工期や工事金額の妥当性を、事業者によって検証していただく「コンストラクションマネジメント」を実施します。現在、事業者を探していて、4月から半年間、事業者とともに妥当性を検証する予定です。

委 員： 区のスタンスとしては、建物のデザインを変えないとのことなので、ぜひそれは曲げないでいただきたいと思います。財政難の中では、世論を味方につけることが鍵になると思います。区民と一体となって進めていくというPRが弱いのではないかと思います。もっと区民を巻き込んで、新しいことを進めていくということを訴えるべきだと思います。

地域文化部長： 再整備について、区民の皆様に期待をもっていただくためのPRが不足しているというのは、区としても感じています。今回、PR第一弾として、子育て中の方や若い世代向けのパンフレットを作りました。このようにターゲットを絞りながら、皆様にご案内していく取り組みを始めたところです。美術館に限らず、練馬区の中で練馬区らしい文化芸術を花開かせていくためには、区民の皆様にご理解いただきながら一緒に進めていくことが大事だと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

会 長： その他ご意見がなければ、「令和6年度事業計画（中間報告）」について、承認とさせていただきます。
次に、次第3のその他に入ります。
事務局から何かありますか。

事務局： <事務局より会議運営事務の一部変更について説明>

会 長： 以上で令和6年度第2回美術館運営協議会を終了いたします。本日はご協力どうもありがとうございました。